

令和3年度 学校評価表(計画・**中間**・最終)

【5月末・**11月末**・3月初旬】

学校名(熊野町立熊野第一小学校)

a 学校教育目標	成長の実感	b 経営理念 ミッション・ビジョン	教職員, 児童, 保護者, 地域が強い絆で結ばれた熊一小学校文化の共創
-------------	-------	-------------------------	-------------------------------------

評価計画(5月末提出)					自己評価				学校運営協議会委員による評価			n改善方策		
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	i 達成率	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標につ いての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	10月	2月
					10月	2月			達成度	イ 適正	ロ 不適正			
<p>・・・ 表自向 現律上 (知徳体) 基優挑 礎戦の 本好継 のま続 の徹し 底心や 態度の 涵養</p>	<p>自分の成長に気付く 力を育成する。</p> <p>今の自分から</p>	<p>今の自分を振り返り、 学んだことやできたこと を、学習や生活に生かそう とする態度を育てる。</p>	<p>○授業スタンダードを活用し、 協働的な学びと振り返りを 充実させた授業を行う。</p> <p>○自ら進んで気持ちの良い あいさつができるように、 あいさつ運動やあいさつ名人 への取組を行う。</p> <p>○自分の伸びが分かる縄跳 びカードを活用し、縄跳び運 動を推奨する。</p>	80%	(7月) 88%	110	A	<p>・昨年度から継続した 取組であるため振り返り が定着している。視 点を示したり、プラスの 評価をしたりすることで 意欲が向上している。 ・1学期は「返事」の指 導を重点的に実施し た。よい返事を意識し ている児童が増えた。 ・縄跳びカードを活用し て、授業中や休み時間 にも取り組めるようにし た。もっと挑戦したいと いう児童が増えた。 ・個人差や学年間の差 が見られ、さらに工夫し ていく必要がある。</p>	7	0	0	<p>・全体的に自分たち で考えるよう進めてい て、子供たちも自分 の考えたことをしっか りと答えている。 ・振り返りの質の向上 の工夫が明確に見え る。時間の確保、視 点の提示、めあての 明確な授業、今後も よりよく目指してい ていきたい。 ・学力については、児 童の意識調査だけ なく、客観的にみられ る数値を指標に入れ るべきではと思う。 ・登下校中のあいさつ や横断歩道でのお礼 がよくできていると思 う。この取組は今後も 続けてほしい。</p>	<p>・しっかりと時間を かけて振り返りを行 う場を設定する。 やりとりをするなど 振り返りが協働的 な場になるようにす る工夫やICTの活 用を有効的に行う。 ・あいさつ名人など の取組を学校全体 へ広げる。 ・縄跳び運動推進 のため継続的に声 かけを行い、新しい 技の紹介や頑張り を評価し、成長に 気付けるようにす る。</p>	
<p>熊一 小学 校文 化の 共創</p>	<p>教職員, 児童, 保護 者, 地域が強い絆で 結ばれた学校を創造 する。</p> <p>コミュニティス クールにおける 取組の 充実</p>	<p>教職員と保護者, 地域が協働して児 童を守り育てる学 校を創造する。</p>	<p>○定期的な学校だよりの発 行とタイムリーなHPの更新 を行う。</p> <p>○保護者・地域の方をゲスト ティーチャーとして招き、共 に活動する場を設定する。</p>	1000 アクセス 80%	月平均 1054 アクセ ス (7月) 92%	105	A	<p>・内容を工夫しながら、 定期的に学校だよ りを発行したり、HPを 更新したりすることが できた。アクセス数は 安定して伸びている。 ・保護者への意識調 査の肯定的評価は、 昨年度よりさらに高 くなっている。保護者 の様々な思いや願い を受け止めながら、取 組を進めていきたい。</p>	7	0	0	<p>・コロナ禍での学校運 営の取組、リモートに よる行事、HPの利 用、保護者の協力 (行事への参加方法・ ゲストティーチャー) など、よく工夫されて いる。今後も状況に 応じて対応していただ きたい。 ・タブレットを活用し た発信をされればま ず協働の意識が高 まると思う。 ・小学校は特にゲスト ティーチャーをお招 きしての活動の場を ふやすことで児童が 地域を意識し考 えていくと思 う。</p>	<p>・学校の様子を直 接みていただく機 会が減っているの で、学校だよりの HPを工夫して発信 していく。ICT機 器を活用し、動画 の配信等も工夫し ていく。 ・感染症対策をし ながら、地域の方 を招き、共に活動 する場を設定す る。</p>	

j評価 A~D 4段階評価

- A: 100 ≤ (目標達成)
- B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
- C: 60 ≤ (もう少し) < 80
- D: (できていない) < 60